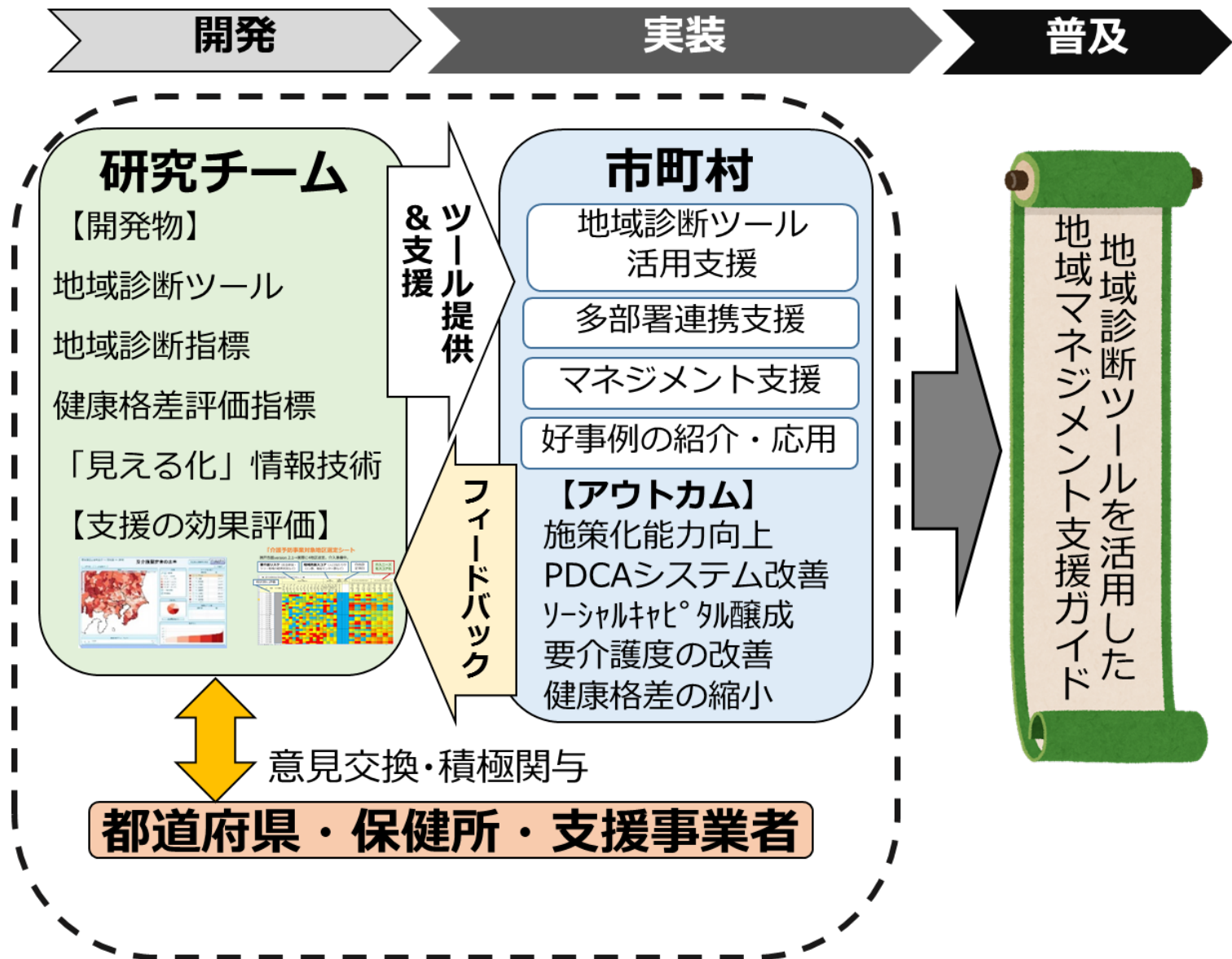


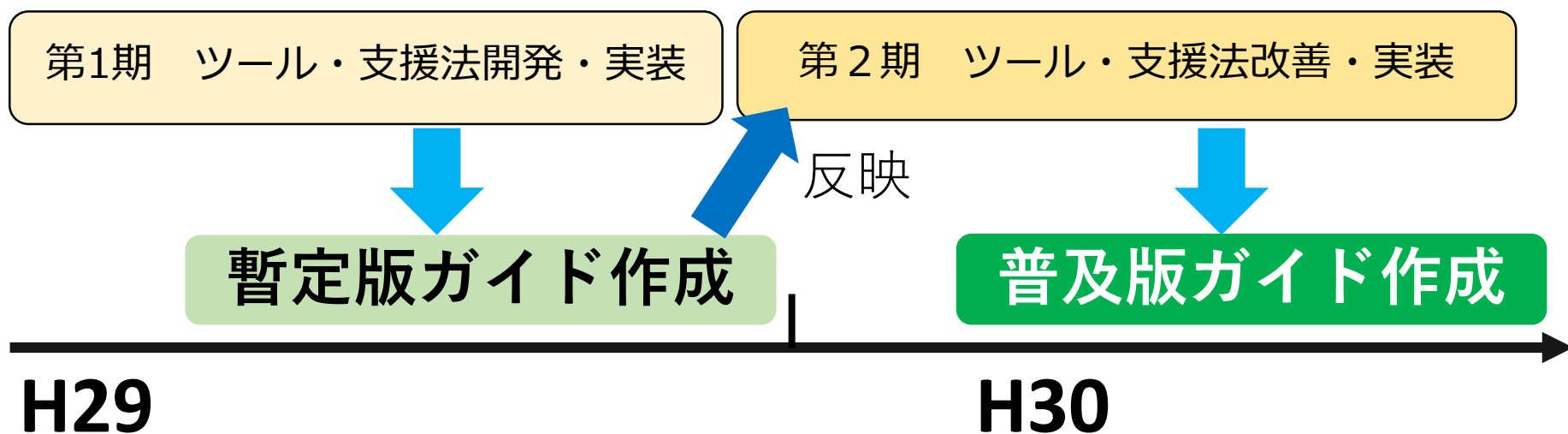
研究開発の概念図



具体的な方法

1. 全AMED課題に引き続き、地域診断ツールを開発・アップデート
 - 「格差」を見える化：市町村間・市町村内グループ間（小地域・所得階層等）比較
 - データ：JAGESの10万人規模の縦断データ／生活圏域ニーズ調査個票データ（約200市町村分）
2. データツール活用法に関する研修の運営法・組織連携に役立つツールを発展（行動チェックリスト等）
3. 複数の市町村職員およびその支援組織とこれらの開発プロセスを共有して活用事例をつくる（地域診断ツールを用いた事業計画策定・連携マネジメントの支援法）
4. レセプトデータや健康行動ポイントデータの活用、災害復興期の特殊ニーズ（復興住宅の地域診断等）への対応法の検討
5. 職員への質問紙・聞き取り調査により、上記支援の効果を質的・量的に評価

スケジュール



- 初年度に支援組織との連携体制を構築（目標：政令市2つ・県や保健所2つ・事業者1つ）
- 次年度は支援組織と研究者の共同作業化を目指す

期待される成果

開発の成果物

- 最新版JAGES地域診断ツール（JAGES-HEART）
- ニーズ調査版・地域包括ケアのための地域診断標準項目（仮称）」
- 「地域診断ツールを活用した地域マネジメント支援ガイド（仮称）」
- 市町村活動支援の先駆的事例

研究の成果

- 縦断データ・介護ビッグデータの活用による研究結果
- 介護予防のための地域づくりに資するエビデンス
- 新しい地域診断法・活動の効果・費用対効果の評価法